



歓喜する選手たち



ピントライの活躍で  
マンオブザマッチの川島勇輝

## attention

### 蹴球部



藤原空輝、最後の熱意有輝

2019年11月30日に出陣秩父宮ラグビー競技場にて行われた関東大学対抗戦において、帝京大学から9シーズンぶりの勝利を収め、有終の美を飾った。詳しくは3ページに。

### 三色旗の重み

ソフトテニス部部長 澤田 達男

本年1月5日(日)、新木場にある夢の高校競技場で開催された、第9回早稲田駅伝に、私は前期の仲間と参加しました。私は体育会出身ではないのですが、他の仲間も、蹴球部、山岳部、スケート部、環境知事部のOB・OGです。我々はランニングを趣味としており、フルマラソン、ハーフマラソン等のレースに日頃参加しています。ランナーではない体育会OB・OGの仲間は、時々我々の応援に駆けつけてくれます。今回、早稲田駅伝の情報を知り、一度参加してみよう、となりました。

会場は、まさに早稲田一色です。業内版、早稲田の学生、専門会の方々ウェアは、ほとんど無差別を基準としたものです。スピーカーから流れるのは、全て早稲田のカレッジソングです。もちろん支給された薄も御座います。個人ラン、キッズラン、親子・孫ラン、といったレースも学年・年代別に用意されていて、早稲田の生徒・学生、専門会が一体となって、素晴らしい大会の雰囲気を作り上げていました。観客席は満員・応援者でほぼ満席です。我々のユニフォームは三色旗にKマークが描かれたデザインで、早稲田の人が見れば、慶應であることは一目瞭然です。応援に来てくれた仲間達もベンマークの入ったウィンドブレーカーを着ているので、観客席でも注目を集めたかもしれません。メインレースの駅伝では、5分前、選手団が20kmで着き

解いていきます。普段、20km以上のレースに出ることが多いので、1区間1〜6kmとなると、どうしてもスピードを出してオーバーペースとなり、64〜65歳の我々には結構厳しいランでした。心拍数が急激に上がり、普段のレースとは異なった状況でした。駅伝では、棒を次の走者に継ぎ渡すことが、重要な課題です。今回駅伝に参加してみて、つくづく棒の重みを感じました。高橋駅伝において、フワフワになりながらも棒をなんとか次の走者に渡そうとする選手の様子をしばしば見てきました。自身が走って来て、その心情を身をもって体験しました。沿道からは「あっ、慶應がいる」「慶應頑張れ」「陸の王者、慶應」といった声援や声援を多数もらいました。もちろん、観客席の仲間からの声援も充分届きました。

部の試合会場にはよく出かけますが、今回、慶を代表して出場している部員達の心情を少し理解できたように思えます。胸に三色旗を付けて走れる有り難さ、幸せ、また、その重みをヒシヒシと感じました。応援の有り難さも深く感じました。寒風の中、わざわざ来てくれた仲間には、感謝の気持ちで一杯になりました。All早稲田の中での慶應ですから、常に隊が我々の歩動を見ていたと思えます。レース後も多くの視線を感じました。今回は、三色旗のユニフォームであったから目立ちました。我々中の人間には、常に慶應が後ろに控えています。そのことを改めて認識した駅伝参加でもありました。

## その他の報告

### 別 相模部創部100周年記念式典・祝賀会

三田相模会会長 奈良 文彦

11月16日、交詢社にて相模部創部100周年記念式典・祝賀会が開催されました。式典は相模部副委員長の土佐哲次氏から始まり、来賓の長谷山監長よりご祝辞をいただきました。

長谷山監長は監長ご就任初20年間相模部長として務め支えてきたご苦労、勲員として100周年式典に参加することの深い感謝、積古による身心の鍛錬の意義等をお話しいただきました。続いて日本相模連盟の両会長からご祝辞をいただきました。両会長からは整頓操部の全国大会優勝4回、学生優勝4名等の実績、現在の部の理解ぶり、今後への大きな期待等の温かなお言葉をいただきました。続いて相模部監督として奈良からご挨拶を申し上げ、式典は終了し祝賀会に移りました。

祝賀会では三田体育会常任会長からご挨拶として、身体文化としての相模のアイデンティティと、その継承の重要性等に関しお話しをいただきました。その後部員紹介、遠坂指導員・中山庄将のリードによる「若き血」の斉唱、三田相模会木下前会長の閉会の辞をもって盛況裡にお開きとなりました。

創部100周年の今年、相模部は東日本大会で55年振りにAクラストップ8、東日本リーグ戦で54年振りにBクラス優勝、全国大会ではAクラスの強豪校と戦い渡しました。一方深澤相模学院は100の正式承認団体となり、B4ヵ国が追加し、男女共に連携する「世界の相模」となっています。互に相模は今後も感謝の心とガバナンスを大前提に世界選手権に男女共に選手を送りこめるよう精進して参ります。



長谷山監長のご挨拶

### 別 ソフトテニス部体育会昇格70周年記念祝賀会開催

三田ソフトテニス倶楽部会長 高橋 達也

11月16日、ソフトテニス部体育会昇格70周年記念祝賀会を日吉キャンパス生協食堂で開催いたしました。30名の来賓、役員部員、OB・OGを合わせて160名が出席、大森渡辺監督就任揮率、川上三田体育会副会長、安部日本

ソフトテニス連盟会長、三戸谷和門門式ゴルフクラブ会長からご祝辞を頂戴し、2時間により懇親を重ね盛会のうちに終わりました。

ソフトテニス部は体育会に昇格してから70年になりますが、創部は明治34年に遡り、明治35年に体育会に加入し、大正2年に軟式部から硬式部に転換、昭和25年に体育会に復帰するまで、その間も地道に活動してきた歴史があります。

体育会昇格後の70年の間には、日本のソフトテニス界を牽引する時期もございましたが、思うような結果の出ない時期や、女子部においては部員数が激減し存続すら危ぶまれる時期もありましたが、現役員、OB・OGの地味な努力と関係者のご指導・ご支援により今日を迎えることができました。現在は男子部が関東大学リーグ2部、女子部が1部にありますが、男女とも全国制覇を目指して更に精進いたします。

体育会昇格70周年は、一つの到達点であります。今後とも、現役と三田ソフトテニス倶楽部会員が一体となって、100周年に向けて邁進して参りたいと思います。引き続き皆様のご指導・ご支援・ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。



祝賀会で挨拶をする塚田会長

### 別 蹴球部創部120周年記念

#### 「慶應ラグビーファミリーの集い」開催

東奥会理事長 市瀬 肇和

11月23日(日)に慶應義塾体育会蹴球部創部120周年記念「慶應ラグビーファミリーの集い」をセルリアンタワー東急ホテルで開催しました。本会には長谷山監長、山本建事始め関係者、OB、現役、保護者、一貫教育校、単体会会関係者等約300名が出席しました。特別ゲストとして慶應ひいては日本にラグビーを伝えたB.C.クラーク氏の孫娘のヘザー・ハンフリーズ(81)さんにも参加いただき、120年の歴史と伝統を振り返りながら「慶應ラグビーは何のために存在し、何のために闘つか」を改めて問う1日となりました。

長谷山監長は挨拶の中で「慶應ラグビーの歴史は日本のラグビーの歴史である。ルーツ校としてWPIの盛り上がりから思いを、ラグビーのフェアプレーとジェントルマンシップは慶應魂華の精神にも繋がる」と語られました。米国から来日されたハンフリーズさんは「人は2度、亡く